



2025年11月11日

各 位

会 社 名 株式会社テクノマセマティカル
代表者名 代表取締役社長 田中 正文
(コード番号 3787 東証スタンダード)
問合せ先 取締役副社長 出口 眞規子
(TEL. 03-3492-3633)

2026年3月期第2四半期（中間期）業績予想の修正および
営業外収益（為替差益）の計上に関するお知らせ

決算集計状況を踏まえ、2025年5月14日に公表いたしました2026年3月期第2四半期（中間期）の業績予想を修正しましたのでお知らせします。

また、2026年3月期第2四半期（中間期）において、営業外収益（為替差益）を計上する見込みとなりましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

2026年3月期第2四半期（中間期）（2025年4月1日～2025年9月30日）

（単位：百万円、円）

	売 上 高	営業利益	経常利益	中間 純利益	1株当たり 中間純利益
前回発表予想（A）	270	△78	△80	△81	△31.24
今回修正予想（B）	281	△50	△52	△53	△20.69
増減高（B－A）	11	28	28	28	－
増減率（％）	4.1%	－	－	－	－
（ご参考） 前 年 同 期 実 績 （2025年3月期第2四半期）	188	△174	△173	△175	△67.56

2. 修正の理由

売上高は、ソリューション事業は、防衛装備品案件は堅調だったものの既存製品の拡販が進まず計画値を下回り、ライセンス事業ではソフトウェア部門が見込んでいた案件が期ずれしたこともあり計画値に届かなかったものの、ハードウェア部門は大型のライセンス案件の獲得に加え、デジカメ、ウェアラブル端末向けのロイヤルティの上振れもあり大きく計画値を上回りました。一方、利益面は、売上高の計画値超えとともに役員報酬削減などの経費圧縮策効果もあり、赤字幅は計画値比縮小となりました。なお、部門別の売上計画達成率は次のとおりです。ソフトウェア部門 78%、ハードウェア部門 144%、ソリューション事業 90%。

3. 営業外収益（為替差益）の計上

当社は、為替相場の円安進行により、2026年3月期第2四半期（2025年7月1日～2025年9月30日）において、2百万円の為替差益を計上する見込みです。

この結果、2026年3月期第2四半期（中間期）（2025年4月1日～2025年9月30日）においては、この為替差益と第1四半期（2025年4月1日～2025年6月30日）において計上済みの為替差損（3百万円）の相殺の結果として、為替差損0百万円を営業外費用に計上することとなる見込みです。なお、上記の金額は、当社が保有する外貨建資産等の決済及び期末換算レートによる評価替により発生したものであります。

以 上

（注）上記の見通しは、本資料作成日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は、今後様々な要因によって記載内容と異なる可能性がありますので、当公表の内容に全面的に依拠して投資等の判断を行うことはお控えいただきますようお願い申し上げます。